

会長挨拶

学習指導要領に位置づけられた継続飼育—地域の特性をいかして

宮下 英雄



開会に先立ちましてお話したいことは、まもなくあの日から1年間になろうとすることです。一年前の3月11日、午後2時46分に発生した東日本大震災。それに伴う壊滅的な被害をもたらした大津波、家屋等の炎上、そして原発事故。かつて経験したことのない非常事態といえる積み重なる大惨事による多くの犠牲者、行方不明者、そして避難所生活を強いられた多くの被災された方々にご冥福とお見舞いを申し上げます。

私の親戚も石巻市に在住していました。娘の出産祝いに病院の4階に出向いたときの偶然の瞬時にて母親と祖母のいのちは、奇跡的に助かりました。残されたのは家屋の土台と門柱だけ。どこを見渡しても見えるのは、土台と瓦礫。その生まれた孫を抱えながら、この子は、いのちの恩人、救い主だと称され、いまだに先の見通しのない中、家族に見守られながら、可愛がられている存在です。その反面、両親を亡くされた多くの子どもたちがいます。

あわせて、家族同然というべき多くの動物たちも地震による被害を受けていることにつきましても心痛のほどいかにばかりかとお察し申し上げます。日本獣医師会などを含めた動物救援本部等のご活躍にて、被災

動物への対応が行われておりましたが、放置状態にされたままの動物は暴徒化、野生化し、更には白骨化への道をたどらざるを得なかったかと感じます。その数さえ不明な状況にあるといわざるを得ません。すべての命が尊重される社会の実現を目指すことを念じてやみません。

厳しい寒さの中、雪の中、いまだに避難所生活をされている方々の気持ちを察するたびに、早い、復興と再興を切に願うところです。

話は変わりますが、昨年11月にブータン国王夫妻が来日されました。その中で、震災の被災地を訪問され、ワンチュク国王は、ブータンの国旗に描かれている龍の話を、福島の子どもたちにしていただきました。

「皆さんは、龍を見たことがありますか？ 私は、あります。龍は、私たち一人一人の心の中に居て、経験を食べて成長します。年を追うごとに、龍は心の中で成長します。

だから、私たちは、強くなることができるのです。皆さん、自分の中の龍を、大切に育ててください。」と話されました。

人は、どんな経験も糧にして、日増しに強くなることができるというメッセージを子どもたちに伝え、励ましていただきました。龍は、きっと誰の心の中にもいます。どんな経験を積み重ねて、自分の龍をどのように育てるか、自分次第です。

できれば、心豊かな経験で龍をたくましく育てて欲しいと願ってやみません。

(本会会長／聖徳大学大学院・学部兼任講師)